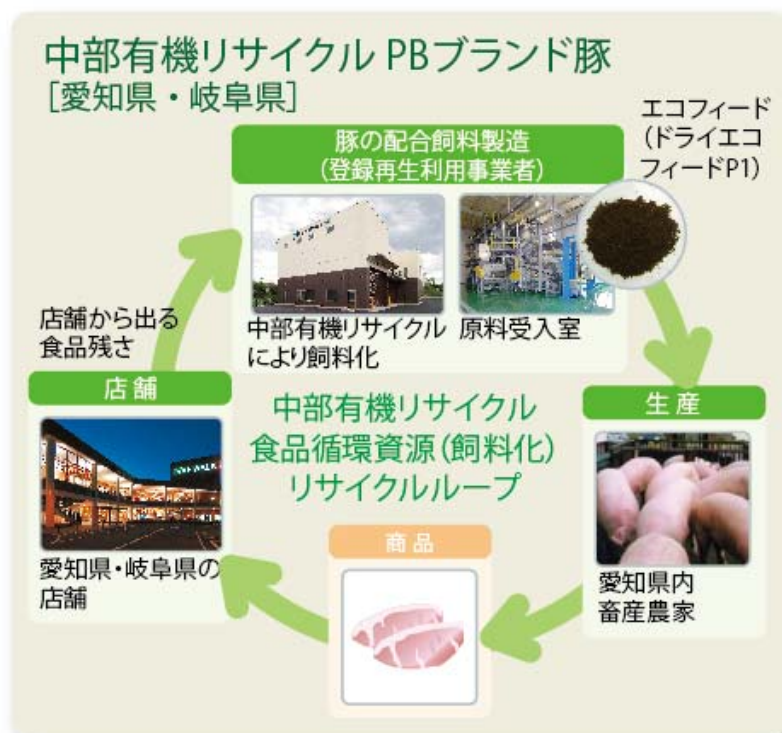


廃棄物の分別・計量で発生抑制とリサイクル推進を図る

他県の自治体にある店舗から排出する未利用食品を原料に飼料を作り、それを使って畜産(豚の飼育)をし、販売するリサイクルループを構築しました。



食品リサイクルループによるメリット

食品リサイクルループはバリューチェーンを確立しているので、トレーサビリティが明確で、生産者の顔の見える安全安心な農作物を消費者に提供できる仕組みです。

地元の農業生産者との協働なので、地産地消の取り組みになる



廃棄物の分別・計量で発生抑制とリサイクル推進を図る

一宮市にある堆肥場で未利用食品（生ごみ）を原料に堆肥を製造します。

子ども達は堆肥場で、未利用食品（生ごみ）が堆肥になるところを見学しました。



出来上がった堆肥は完熟なので、臭いもなく熱くもない、さらさらの土のようです。子ども達は手で触って確かめました。

「野菜クズ」と「魚のアラ」を堆肥場に入れて、発酵させ、堆肥を作ります。発酵するときにガスが発生して臭いが強く、子ども達はちょっとびっくり、でも、生ごみを堆肥にしてくれるのは小さなバクテリアです。ガスを出し、熱を出して堆肥を作っています。



食品リサイクルは命をつなぐ環

廃棄物の分別・計量で発生抑制とリサイクル推進を図る

堆肥をまいた畑で大根の収穫体験をしました。



一人2本抜くことになり、子ども達はどれを抜こうか、真剣に選んで、一番太くてまっすぐな大根を探して、力いっぱい抜きました。

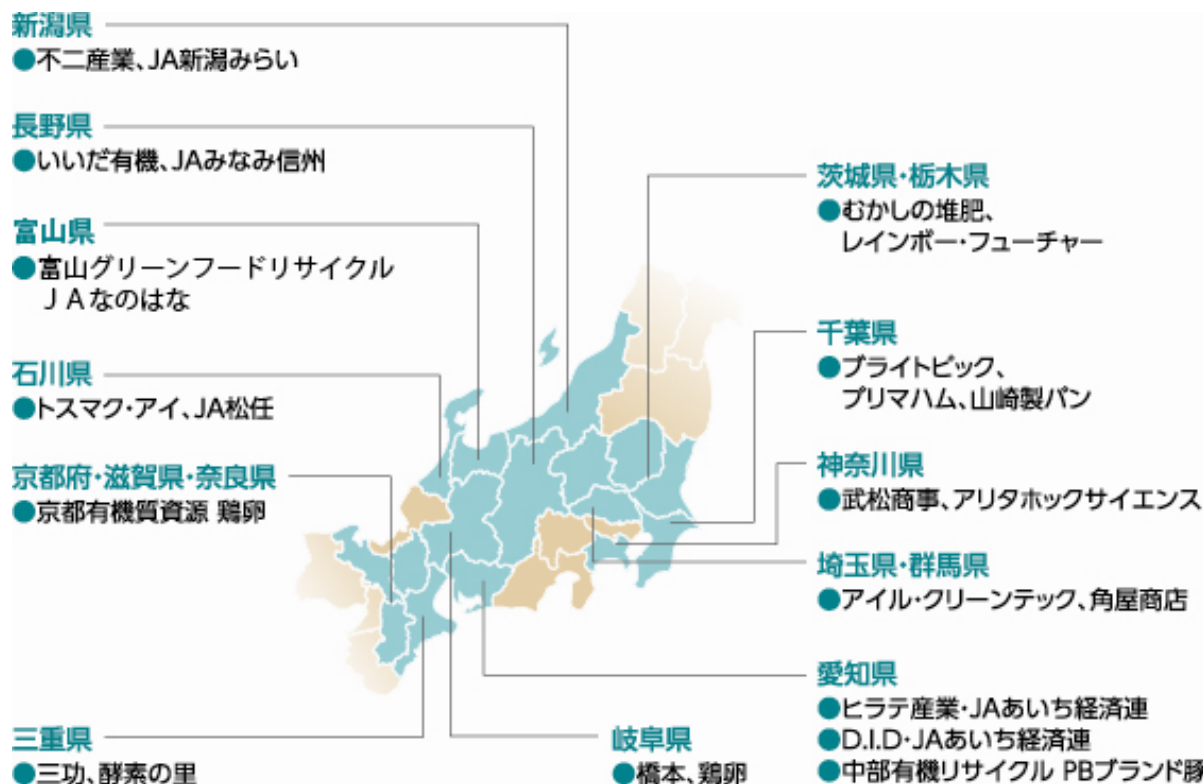


みんな選んで抜いた大根を持ってごきげんです。大根はいえで待っている家族へのお土産。自分で抜いた大根はちょっと自慢です。



各地で広がるリサイクルループ

営業店舗所在地でリサイクルループを構築



循環型社会を目指して

環境にやさしい容器包装

2014年辞退率…… 86.0%
 レジ袋枚数68,454千枚 616 t
 リサイクル料 1億6,104万円
 関西2県含め全店舗で無料配布中止完了

2016年辞退率…… 86.1%
 レジ袋枚数63,572千枚 573 t

◆レジ袋辞退率の推移



◆レジ袋使用量の推移^{※1}

年度	枚数(単位:千枚)	重量(単位: t)	備 考
2007	310,559	1,818	レジ袋無料配布の中止
2008	309,222	1,851	96店舗で無料配布中止
2009	134,678	1,029	170店舗で無料配布中止
2010	116,749	964	約73%の店舗で無料配布中止
2011	111,632	851	四日市市・弥富市などの店舗が加わる
2012	110,743	839	約80%の店舗で無料配布中止
2013	109,528	821	滋賀県、長野県、愛知県全域で無料配布中止
2014	68,454	616	関東8県、関西2県含め全店舗で無料配布中止
2015	63,288	587	全店での無料配布中止を継続
2016	63,572	573	店舗閉鎖などにより使用量は減少

※1 2008年にユーストアと合併し80店舗増える

※2 容器包装リサイクル法に基づき、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

※3 全店でのレジ袋有料化を実施したためプラスチック容器包装が大きく削減された

◆容器包装リサイクル法への対応^{※2}

年度	委託金額(税込)
2007	2億9,729万円
2008	2億7,978万円
2009	2億2,272万円
2010	1億6,655万円
2011	1億6,154万円
2012	1億4,868万円
2013	1億5,866万円
2014	1億6,104万円
2015	1億3,557万円
2016	1億2,489万円



■容器包装削減とリサイクルによるCO2削減

- レジ袋を辞退すると、1枚につき30.8gのCO₂が削減できます。

ユニーが2006年に使用したレジ袋 …… 3億3,363万枚

ユニーが2016年に使用したレジ袋 …… 6,357万枚

差引 2億7,005万枚削減 (CO₂は2006年度対比8,318tの削減)

◆2016年度リサイクル回収によるCO₂削減量

	回収実績 (kg)	CO ₂ 削減量 (kg)
アルミ缶	680,056	5,848,482
牛乳パック	534,436	267,218
食品トレイ	279,441	1,760,478
ペットボトル	2,352,252	8,468,107
合 計	3,846,185	16,344,285



- リサイクルボックスで回収すると
アルミ缶1kgで8.6kgのCO₂削減
牛乳パック1kgで0.5kgのCO₂削減
食品トレイ1kgで6.3kgのCO₂削減
ペットボトル1kgで3.6kgのCO₂削減



100年後の子ども達のために

